



米子市埋蔵文化財センターたより

第5号

2012年6月

さかいうちかいどうにし

境内海道西遺跡の現地調査を開始！

さかい

—南部町 境—



丘陵斜面の竪穴住居跡

一般国道180号道路改築事業（南部バイパス）に伴う発掘調査が始まりました。今年度調査を実施する境内海道西遺跡は、先年度調査が行われた境矢石遺跡から、沖積低地を隔てた南東側の丘陵に位置する遺跡です。現在、弥生時代後期から古墳時代にかけての竪穴住居跡4棟、段状遺構、古代の段状遺構が検出されています。遺構は境矢石遺跡と同様に丘陵斜面の凹部に集中しており、当該地区の集落構造を知る上で興味深い事例です。急斜面に掘り込まれた竪穴住居跡の中には五角形の平面のものもあり、限られた空間を有効利用していたことが窺えます。

山林だった遺跡地は木の根や竹の根が繁茂しており、作業員さん達は地下に包蔵される遺跡を破壊しないように慎重に斧やマサカリを使い、毎日切り株と格闘しながら調査を進めています。写真の提瓶は、ほぼ完形の状態で竹の根に包まれて出土しました。地下にあった遺物が竹の力で浮き上がってしまったようで、まさに『竹取物語』の世界をほうふつさせます(^)。 (濱野)



境内海道西遺跡の位置図



表土掘削作業の状況



出土した提瓶

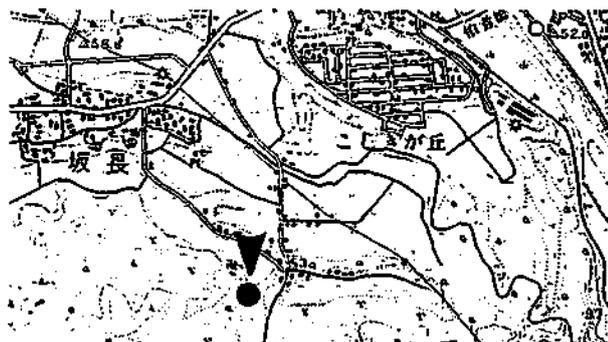
発掘調査情報

下記の2か所の遺跡でも、発掘調査が始まりました。今後の成果が期待されています。

坂長^{さかちよう}ブジラ遺跡—伯耆町坂長—

坂長ブジラ遺跡は、伯耆町坂長にある曹洞宗の寺院、普門寺の南に位置しています。平成22年度に県文化財団によって行われた隣接地の調査では、古代から中世の水路と弥生時代の土器が大量に出土した河川が見つかっています。

今年度の調査では、この河川がどこまで伸びているのかを確認する予定ですが、すでに4月からの調査で弥生時代中期の貯蔵穴を3基確認したことから、調査地内に弥生時代の集落が存在するものと考えられます。(佐伯)



坂長ブジラ遺跡位置図

福成大坪上^{ふくなりおおつぼかみ}遺跡—南部町福成—

福成大坪上遺は、国道180号(南部バイパス)の工事に伴い、5月16日から発掘調査を実施しています。調査地は、手間要害山(標高231m)からのびる丘陵の裾部に位置しており、これまでの調査では、江戸時代の終わりごろの水路を2基確認しています。また、下層には中世と考えられる水田跡や自然河川が存在しており、今後の調査の成果が期待されます。(高橋)



福成大坪上遺跡位置図

整理室たより

センターでは、新修米子市史資料として作成された昭和48年(1973)からの考古学関係の新聞切り抜きのスクラップが保存されています。その後も記事掲載の新聞の寄贈があり、引き続いて切り抜きスクラップを作成する整理作業を行っています。

これらの記事は、発掘調査や発見の記録として考古学の動向を端的に知ることができる資料として活用できるものです。むつかしい報告書と異なり、分かりやすい記事資料です。ご利用ください。(小原)



スクラップ作業

米子市長砂地区には、丘陵部に長砂古墳群（2基）と水道山古墳、斜面に集落跡、平野部に水田跡など遺跡が7箇所知られています。1989年に加茂川改良工事に伴う発掘で長砂第1、第2遺跡が、1995～1998年に都市計画道路車尾～目久美線工事に伴う発掘で長砂第3、第4遺跡が調査されました。

長砂第1、第2遺跡は、平野の西寄りの低地に立地する遺跡で、弥生時代の水田跡や水路、土坑と多数の弥生時代前期の土器が発見されました。長砂第3遺跡は、平野の東側の



長砂第3遺跡S104 竪穴住居跡

丘陵西斜面に立地する弥生時代前期～古墳時代中期の集落跡で竪穴住居跡、掘立柱建物跡などが発見されました。長砂第4遺跡は平野の東寄りの低地に立地する遺跡で水路跡が発見されました。遺物は縄文晩期～古墳時代中期の土器や石器、木製品などが多数出土しています。

これらの遺跡から、長砂地域では縄文晩期頃から山裾や斜面に人々が住みつき、弥生時代から古墳時代には水田を開いて暮らしていたことが分かりました。

また、水道山古墳から「八神鏡」、長砂第3遺跡からは「珠文鏡」が出土しており、古墳時代中期には、長砂地区に有力な豪族の存在が推察されます。（小原）

コラムー縄文遺跡を掘る ④縄文時代後期 ー喜多原第4遺跡ー

米子市東部の大山西山麓に広がる標高50～100mのなだらかな洪積台地は通称岡成原、喜多原、百塚原などと呼ばれています。

この台地上には、縄文～古墳時代の集落跡や古墳が多数所在しています。

1989年に倉庫建設に伴い発掘調査された喜多原第4遺跡は、縄文時代後期の住居跡1棟と多数の土坑が発見されて注目されました。住居跡は掘立柱建物状で、柱穴が長楕円形につながる遺構です。山陰では例がなく富山県不動堂遺跡の竪穴のロングハウス例に近い形でした。落とし穴は11基、土坑は20基発見され、遺物は縄文後期の粗製土器と石鏃です。この遺跡から、喜多原の台地は三千年前から生活の舞台として利用されていたことがわかります。



住居跡SB11

センター・資料館日誌

- 4月10日 西部県土整備局と平成24年度第1回南部バイパス関係遺跡調査協議を行った。
- 4月15日 愛知県埋文センターの石黒氏が弥生土器の調査で来館された。
- 4月18日 境内海道西遺跡、坂長ブジラ遺跡の現地調査が開始された。
- 4月24日 五千石小学校がウォークラリーのポイントとして来訪した。
- 4月27日 県埋文センターで境矢石遺跡の出土鉄器などのX線撮影を行った。
- 4月29日 福市遺跡公園でつつじ祭りが開催され、臨時駐車場として校庭提供。
- 5月3日 島根県の幡中氏が縄文土器の調査で来館された。
- 5月8日 鳥取県教育文化財団の北氏が境矢石遺跡等の石器鑑定指導で来館された。
- 5月10日 佐伯調査員が資料調査で奈良へ出張。
- 5月13日 自主事業「米子城跡ガイド」を現地米子城跡で行った。
- 5月21日 福成大坪上遺跡の現地調査を開始。
- 5月27日 南部町の東西町五月祭へ境矢石遺跡出土品を貸出展示した。
- 5月29日 尚徳小学校3年生が郷土学習で来館し、古代の遺物の学習を行った。
- 6月12日 元興寺文化財研究所の狭川氏、山形県博の山口氏が塔婆資料の調査で来館された
- 6月14日 尚徳小学校3年生が福市考古資料館で体験学習を行った。
- 6月17日 自主事業「米子城下町ガイド・第1回」を行った。
- 6月18日 北陸学院大小林教授が土器ススコゲ研究で来館された。

行事案内

福市考古資料館

「発掘調査速報展」

昨年度に米子市周辺で発掘調査された遺跡の様子を遺構写真や出土品で解説する企画展を行います。

開催期日 7月25日(水)～

8月27日(月)

展示品 境矢石遺跡、伯楽塚遺跡等の出土品や調査された遺構の写真など

■観覧料 無料

■開館時間

午前9時30分～午後4時30分

■休館日

7月3、10、17、18、24、31日

8月7、14、21、28日

編集後記

福市遺跡のつつじも咲き終わり、青葉の季節が巡ってきて、暑い夏の到来がまぢかです。

山陰も梅雨に入り、はっきりしない天気が続いています。節電対策で植えた朝顔やゴーヤのグリーンカーテンは伸び悩んでおり、真夏には茂ることを期待しています。少しは減温効果が期待されるでしょうか。

発行日 平成24年6月29日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 米子市教育文化事業団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp